

帰はかなりの覚悟が伴ったものだと感じ取れます。

もちろん覚悟はありましたが、実際のところは感謝の気持ちばかりです。

昨年末に新潟との契約満了が決まり、当然ながら自分としてはまだまだ現役でプレーしたいと思っていたので、例年以上に体をしっかり動かしながら次のチームを探していました。探すというよりは、ひたすら他チームから声をかけてくれるのを待っていた状態ですね。ただし、今こうして言葉にするのは簡単ですが、実際はとても不安でした。初めて経験する状況でしたし、家族の生活も守らなければいけない。です。で、知り合いを通じて「日本に限らず、どこかチームありませんか？」と国を問わずチームを探しました。移籍先を探すというよりは完全に職探しですよ。どのカテゴリーでもいいから、自分を求めてくれるチームはないだろうか。純粹にそういった心境でした。

そうした中、竜二さん（河合GM）に状況報告をしたところ、「連絡をくれてありがとう。ちょっとウチでも検討させてくれ」と言っていたいたのです。そこで何か決まったわけではありませんが、所属チームがない自分にとっては、少しでも可能性が残っただけでも本当にうれしいことでした。そして、最終的に竜二さんから「コンサドーレに力を貸してほしい」とオファーがあり、現在に至っているわけです。

ただし正直、声を上げるだけでは若い選手の手心にはなかなか刺さらないと感じていて。言われたら、もちろん彼らはやるでしょう。しかし、意識を根本的に底上げするなら声や言葉ではなく、どれだけ行動で示せるか。「あの人がやっているから、自分も同じようにやらなければ」と自然と感じさせなければいけない。

そのためには練習時のランニングは先頭を走り、朝早くからクラブハウスに来て練習前の準備をする。練習後もクラブハウスでやれることをやり尽くしてから帰宅する。そういった意識は新潟在籍時から持つようになり、このコンサドーレでも発揮したいと思っています。唯一、朝早くという部分についてはスゲさん（菅野孝憲）には勝てないと思いますけど（笑）。なにしろスゲさんはアウェー戦からの移動後、バスでクラブハウスに23時頃に到着し、そこから着替え

――喜びは大きかったことと思います。

それはもう。実は竜二さんから連絡が来た翌日に、他チームからも正式オファーがあったのです。繰り返しになりますが、その時期の僕は所属チームがなく、どこでもいいからプレーしたい。生活するためにチームを見つけなければいけない。そうした切羽詰まった状況だったので万が一、順序が逆で他チームからの連絡が先に届き、「時間がないから即決してくれ」と言われていたら、コンサドーレではなくそっちに決めていたかもしれません。あらためて迅速に動いてくれた竜二さんをはじめコンサドーレには感謝しかありません。再び赤黒のユニホームを着てプレーできていることの喜びを、今は本当に強く感じています。

声ではなく、行動で示したい

――コンサドーレの一員に復帰し、成し遂げたい目標がありますか。

やはり、まずはチームを再びJ1へと戻すことです。自分は得点を量産して独力でチームを勝利に導く、という選手ではありません。ですから、とにかく自分がやれることすべてをとことんやっていきたいと考えています。強いて一つ挙げるとするならば、外からは見えにくいかもしれませんが、「練習の雰囲気より厳しいものへと変えていくこと」。そこは自分が得意とするところであると同時に竜二さんからも求められているので日々、力を尽くしています。

マシンでランニングをするような人なんです。その意識はものすごいですよ。

でも、それだけ素晴らしいお手本が身近にいるわけですから、僕も一緒に頑張って起こしたい。1人だけだと「スゲさんはすごいよね」で終わってしまうかもしれない。でも、それが1人から2人へ、そして3人へと増えていけば、それが大きなうねりとなり、やがてチームの文化として定着していくと信じています。

今回、10年ぶりにコンサドーレに復帰することができました。本当に感謝しています。僕も年齢を重ね経験も積みましたので、単なる1人の戦力としてだけではなく、未来に受け継がれるような「強いコンサドーレ」の意識や文化を構築したいです。すべての力を注ぎ、赤黒のユニホームのために戦い抜きたいと思っています。



日々全力で！！
31

堀米悠斗（ほりごめ・ゆうと）

1994年9月9日生まれ、札幌市出身。身長168cm、体重67kg。札幌のアカデミーで育ち、U-12からU-18まで順調に昇格。ユース時代には主将も務め、2013年にトップチームへ昇格した。翌年は福島への期限付き移籍で経験を積み、復帰後はサイドを主戦場として徐々に出場機会を増やし、レギュラーに定着。17年に新潟へ移籍すると、長年にわたり主力として活躍し、キャプテンも経験。25年オフに約10年ぶりに札幌へ復帰した。攻守にわたる運動量と戦術理解の高さを武器とし、チームにバランスをもたらす存在である。

REACH
FOR
TOP

頂点を
目指せ!

MATCHDAY
06.
28
PROGRAM

MATCHDAY
09.
13
PROGRAM

MATCHDAY
11.
08
PROG

TOTAL PRINTING
株式会社 須田装版
www.suda.co.jp

〈札幌本社〉
札幌市西区二十四軒2条6丁目1-8
TEL.011-621-1000